

編集後記

雑誌名	日本文学誌要
巻	43
ページ	88-88
発行年	1990-11-10
URL	http://hdl.handle.net/10114/00019624

編集後記

◆このところ殆どどの文学雑誌で文学賞を設け、それぞれ作品の募集を行っている。各賞には設置した主旨や目標があり、選考委員を定めている。選考委員会で厳密な審査の結果受賞作品がきまる。その経過や審査の内容は数名の委員がそれぞれに発表している。それを読むと、「これは賛同者がほとんどなく、孤軍奮闘する程の氣力が湧かなかった」とか「生煮えの作品」であるとか「信用出来る作品」とか「むやみに火をつけるな」とか「この際はっきりと言うと基本の勉強が不足」といったように作品に対しての選考者のするどい見方、読み方と、作者に対しての創作力みちびきのような重点を示している。

◆ある研究発表会での口演をきいたことがある。

題名によって「作家論」でありその作家も作中の一員であることもわかった。

作品の一部を述べ作家の分析をはじめた。そのようにして創作の内容を徐々に展開し、種々研究された著書や資料を類々と挙げて創作と作家をからみ合せて論評している。この

作家も中の登場人物も私のよく知っている人たちなので恋愛葛藤の事もよくわかってるので非常に興味深く聞いていた。なにしろよく調べあげていて、それぞれ引例にたよる。そのために時々口演者の姿が見えなくなってしまう。挙げた引例には間違いないが、どうも引例の執筆者の力の方が強いせいか聞いているとその方に引張られてしまう。

口演は終わった。云うこともわかった。しかしあとに残るべき研究者の姿がかすんでしまっていた。

矢張りこれも基本の勉強の不足をもいうのであろうか。

◆いろいろの雑誌に「書評」が掲載される。

出版された著書の批評であるから書評の執筆者は著者が創作力をもって書き現わした内容について、執筆者も創作力によって批判するというのが本筋であろうと思う。ところが一般的に見てどの書評もどうも「図書紹介」をふみ出していないように受取れる。

大体が書評をたのまれる場合、著書からの寄贈うけてはじまるものが多い。そのために殆んどといっていいほど内容を親切に紹介して終っている。「書評」とあるからには単な

る図書紹介では困る。図書紹介はそれなりに利用出来るから「書評」と「図書紹介」とは明確にしておかなくてはならない。これが雑誌編集の重要な点の一つでもあると思っている。
(鈴木和雄)

一九九〇年十一月一〇日 発行	
日本文學誌要 第四三号	
編集人	鈴木 和 雄
発行人	佐 川 誠 義
東京都千代田区富士見二ノ 一七ノ一法政大学八〇年館	
発行所	法政大学国文学会
電話〇三(264)九七五二	
印刷所	新日本印刷株式会社
東京都新宿区市ヶ谷本村町三二一	